令和５年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　　徳丸小　　学校

■児童・生徒の学力の状況

〇文章の読み取りなど、集中力を要する学習に苦手意識をもつ児童が多く、学習が滞る傾向がある。
〇宿題などの家庭学習に自力では取り組めないなど、生活習慣の改善が必要な児童が少なくない。
〇合理的な配慮を必要とする児童が各学級に複数人おり、生活・学習それぞれの場面で、きめ細かな支援が必要である。
〇自己有用感の低い児童が見られる。学習への不安がその一因と考えられる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

〇モジュール学習等を活用して、文章をあきらめずに読み取る姿勢を育成する必要がある。
〇思考したことを効果的に表現し、集団での共通理解を深めていくために、思考ツールや一人一台タブレット等のＩＣＴ機器を組み合わせて、視覚的な表現方法を増やして理解に繋げる。
〇家庭学習を推進し、放課後学習教室など授業以外の学習と組み合わせて学習習慣の確立を図る必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

〇「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業革新（分かる・できる・楽しい授業）を推進する。
〇自ら課題解決ができる児童を育成するために、「ユニバーサルデザイン」の視点を生かして、児童全員が分かる授業を展開する。
〇「東京ベーシック・ドリル」を活用した基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。
〇「読み解く力」の育成（「聴く」「読む」「話す」活動の重視、姿勢・態度の育成）
〇英語教育の充実（外国語活動１・２年４時間３・４学年３５時間、外国語科５・６学年７０時間、ALTの効果的な活用）。
〇一人一台タブレット等のＩＣＴ機器を活用し、友達に考えを発信し、交流する中で「分かる」「楽しい」を目指した授業の充実。
〇学びのエリア連携３校での共通課題（学力向上、授業規律確立、特別支援教育）の解決を進め、学習習慣の徹底と家庭学習の推進を図る。
〇楽しく学び合う授業を目指すことによって、学校の中で児童の自己有用感を高め、学習への意欲を喚起する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 総合的な学習の時間との連携
〇授業規律を重視するとともに、各教科の授業において、「課題をつかむ→予想し、自力解決する→集団での検討、話し合い→まとめとふり返り→新たな課題で次時につなげる」という一貫した流れを定着させる。	〇長い文章を正確に読むための語彙の獲得と集中力を養うために、モジュールの時間等を活用して基礎的な問題に取り組む時間を確保する。	〇各教科で学習した内容をもとに、総合的な学習の時間に活かせる内容、まとめの方法等を児童に意識させる声かけを徹底する。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のｉカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
〇「読み解く力の育成」のため、すべての授業時間で文章を正確に読み取る活動を取り入れる。 〇モジュールの時間を活用して、語彙を増やす活動、集中力を高める活動を取り入れる。	〇すべての教科学習において、総合的な学習を意識した教科横断的学習が可能かどうか検討しながら学習を進める。 〇高学年においては、教科担任制を念頭に、他学級の学習を担当するなど、より多くの教員の力で児童の学習を支えるカリキュラムを実施していく。	〇1人1台端末を活用して、自分の考えを短く端的に表現できる力を養う。 〇自分の考えを友達に発信し、意見を交換するツールとして1人1台端末や電子黒板を効果的に活用する。